



# JOYFUL BRASS 2009

三木ウインドフィルハーモニー & *A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ  
合同演奏会

2009年 5月 4日 (月・祝)

開場 / 16:00 開演 / 17:00

ザ・シンフォニーホール



Stage 1

三木ウィンドフィルハーモニー

リムスキー・コルサコフ / Nicholas Rimsky-Korsakov

歌劇「ムラーダ」より 貴族たちの行列

Procession of Nobles from "Mlada"

指揮:植松 栄司

カレル・フサ / Karel Husa

プラハ1968年のための音楽より トッカータとコラール

Music for Prague 1968 Toccata and Chorale

指揮:植松 栄司

リヒャルト・シュトラウス / Richard Strauss

交響詩「ティル・オイレンシュペーゲルの愉快ないたずら」

Till Eulenspiegels lustige Streiche

指揮:池田 正宏

Stage 2

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

杉浦邦弘 / Kunihiko Sugiura

マーチ・メドレー

March Medley

指揮:魚谷 昌克

高昌帥 / Chang Su Koh

Mindscape for Wind Orchestra

客演指揮:高 昌帥

Stage 3

合同演奏

アーロン・コープランド / Aaron Copland

エル・サロン・メヒコ

El Salon Mexico

客演指揮:斉田 好男

オットリーノ・レスピーギ / Ottorino Respighi

交響詩「ローマの松」

Pini di Roma

客演指揮:斉田 好男

Profile

斉田 好男



武蔵野音楽大学大学院修了後、同大学研究員。斎藤秀雄最後の門下生の一人。関西では数少ないオールラウンドプロ指揮者としてオペラから吹奏楽・合唱まで幅広いレパートリーを持つ。

1984年「ヘンゼルとグレーテル」指揮でオペラデビュー。以後「フィガロの結婚」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「蝶々夫人」「こうもり」他、多くのオペラを指揮、関西オペラ界において重要な役割を果たして来ている。管弦楽では大阪シンフォニー、関西フィルをはじめ、クライオパ・フィルハーモニー(ルーマニア)の客演指揮など海外でも活躍。2007年、明石フィルハーモニー管弦楽団の設立と共に、指揮者として若いオーケストラの育成にあたっている。多方面に渡る指導にも定評があり、合唱・吹奏楽においても大きなステージ

の客演依頼が多い。また各種コンクール・音楽祭の審査員、指揮法講習会講師、2006年、兵庫県式典音楽総監督など多忙な日々を送っている。著書に『はじめての指揮法』(音楽之友社)。現在、神戸大学大学院教授。日本指揮者協会、日本演奏連盟、日本吹奏楽指導者協会、兵庫県音楽活動推進会議、神戸芸術文化会議、神戸音楽家協会各会員。他関係団体多数。

高 昌帥



1970年、大阪生まれ。

大阪音楽大学作曲科卒業後、スイス・バーゼル音楽アカデミー留学。

これまでに作曲を田中邦彦、R.ケルターボーンの各氏に、指揮をJ.マイヤー氏にそれぞれ師事。

第5回吹田音楽コンクール作曲部門一位無しの二位

第13回名古屋文化振興賞作曲部門佳作

第1回コダーイ記念国際作曲コンクール佳作

第12回朝日作曲賞受賞(2002年吹奏楽コンクール課題曲「ラメント」)

第1回COMINES-WARNETON国際作曲コンクール「イヴ・ルルー賞」受賞

平成20年度JBA「下谷奨励賞」受賞

現在、大阪音楽大学助教。仁愛女子短期大学、ESA音楽学院、各非常勤講師。

関西現代音楽交流協会、21世紀の吹奏楽「響宴」各会員。

プロ・アマ問わず多数の委嘱を受け、管弦楽・吹奏楽・室内楽など様々な編成の作品を作曲する傍ら、アマチュアオーケストラや市民バンドの指導にも携わる。

Photo: Gluck - Y. Inoue



## Stage 1

## 三木ウィンドフィルハーモニー

## 歌劇「ムラーダ」より 貴族たちの行列

ロシア国民楽派「五人組」の一人、リムスキー=コルサコフ(1844~1908)は、もともとは海軍士官で、アマチュアの作曲家に過ぎませんでしたが、1871年にペテルブルグ音楽院教授として招聘を受け、やがて管弦楽法の大家として国際的な名声を得るようになります。

「ムラーダ」は、かつて「五人組」で共作しようとしていた作品で、この企画が頓挫していたものを、リムスキー=コルサコフが89年から翌年にかけて同じ題材を基として、単独で作曲、完成させました。「オペラーバレエ」と銘打っているとおり、随所にバレエが織り込まれたユニークな構成となっています。舞台は9~10世紀ごろのバルト海沿岸。ムスティボイとその娘ボイスラヴァが、アルコナ国の王子ヤロミールのフィアンセであるムラーダを殺害する事件から始まり、ボイスラヴァが悪魔に魂を売ってまでヤロミールを誘惑しようと試みたり、亡霊となったムラーダが神の力を借りてヤロミールを守ったり、クレオパトラの亡霊が登場したり、と奇想天外な物語が繰り広げられます。

本日演奏いたします「貴族たちの行列」は、第2幕で演奏される行進曲で、明快な展開と親しみやすい旋律が印象的です。

## プラハ1968年のための音楽

チェコスロバキアのプラハ(1993年にチェコとスロバキアが分離、現在は、プラハはチェコ共和国の首都である)に生まれたカレル・フサ(1921~)は、プラハ音楽院やバリ音楽院などで学んだ後、54年にコーネル大学教授として渡米。59年に市民権を得、今日までに多数の作品を発表しています。

1968年春のチェコスロバキアでは、ドブチュク政権による政治・経済の改革が行われ、言論の自由などが認められた、いわゆる「プラハの春」がはじまりました。ところが、同年8月20日、旧ソ連などのワルシャワ条約機構軍がチェコスロバキア国内に侵攻して、全土を制圧、改革派を「粛清」したのです。フサが、故国で起こったこの事件に対してこみ上げる怒りの中で書き上げたのが「プラハ1968年のための音楽」です。この曲は、永く東欧でレジスタンスと希望の歌として歌われており、スメタナも「我が祖国」の中で用いた、フス教徒の賛歌「汝ら、神とその法の勇士たち」を主題の一つとしており、祖国の自由が踏みにじられたことへの抗議が前面に打ち出されています。また、この曲においてフサは、各パートでのディヴィジョンの多用、トーン・クラスタの導入、多様な奏法や大胆なオーケストレーションなどを駆使して、絶望、抵抗、勝利を描いています。

曲は、「序奏とファンファーレ」「アリア」「間奏曲」「トッカータとコラール」の4つの楽章から構成されていますが、本日はその中から、「トッカータとコラール」を演奏します。

## 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

19世紀末から20世紀前半にかけて活躍したドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウス(1864~1949)は、1880年代から90年代にかけて、「ドン・ファン」などの交響詩で脚光を浴びました。父親のフランツが名ホルン奏者だったことも手伝って、管楽器がリヒャルトにとって子供のころから身近な存在だったためか、そのオーケストレーションはさることながら、管楽器の扱いが実に巧妙であることも知られています。

さて、この曲の題名にもなっている「ティル・オイレンシュピーゲル」という人物。架空の人物とも14世紀に実在したとも言われている悪戯好きの放浪者で、日本ならさしずめ吉四六(きっちよむ)さんと言った趣でしょうか。「昔むかし、あるところに悪戯好きな道化がおりました」というプロローグに始まり、ホルンの奏でる有名な主題によって「ティル」が登場します。そしてその後、ティルの数々の悪戯や、美しい女性に恋をするものの失恋してしまうなど、いろいろなエピソードが時には複雑に、時には滑稽に、そして時には美しく奏でられます。しかし数々の悪戯を繰り返してきたティルもついには捕らえられ、絞首台にかけられる事になってしまいます。音楽が静まると再び冒頭のフレーズがエピローグとして奏でられ、「ティル」の物語が幕を閉じます。

■本日の演奏は相田淳一氏編曲のAPIレンタル譜を使用

## Stage 2

## A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

## マーチ・メドレー

著名な行進曲、映画音楽、クラシックの名曲を、マーチ風にアレンジしてメドレーにした曲です。

皆さんも一度はお聴きになられた事のあるフレーズが随所で登場します。また、この曲は、奏者によるパフォーマンスも楽譜に指定されている珍しいアレンジになっています。

本日はその中から「レイダース・マーチ」「鐘をあげて」「行進曲 軍艦」「スポーツ行進曲」「ダース・ベイダーのテーマ」「結婚行進曲」「天国と地獄」をお送りいたします。お客様も是非、手拍子などをして曲に参加して頂いて、吹奏楽を“楽しんで”下さい。

## Mindscape for Wind Orchestra

タイトル「マインドスケープ」は「心象風景」ほどの意味です。

曲はパーカッションによる幻想的な序奏に続き、複雑なリズム構造と常に激しく訴えかけてくる性格を持つ第1部、寡黙なまでに静的で、たゆむように歌う第2部とから成り、第2部はそれ自体がA-B-A'の3部形式の構造を持っています。全く相反する性格を持つこれら主要2部ですが、共通のモチーフによってコインの表裏のように分かちがたく結び合わされております。

A-Windsの演奏会開催20回記念として、2006年に高昌帥氏に委嘱した作品で、我々A-Windsにとって特別な意味を持った一曲です。演奏するときはやはり、他の曲とは違った感情を持ちます。いわばA-Windsの「宝」とも言えるでしょう。

## Stage 3

## 合同演奏

## エル・サロン・メヒコ

ニューヨーク、ブルックリンに生まれたアーロン・コーブランド(1900~1990)は、20世紀のアメリカを代表する作曲家の一人です。パリでナディア・ブーランジェに師事し、創作活動の初期はその影響を強く受けていましたが、次第に、ジャズや民謡の語彙を取り入れ、都会的な洗練を加味する作風に転じ、広く人気を博すようになりました。

「エル・サロン・メヒコ」は、コーブランドを一躍有名にした曲です。この曲はコーブランドがメキシコ・シティの有名なダンス・ホール「El Salon Mexico」を訪れた際、エキゾチックな雰囲気、強き惹きつけられ、その印象を音楽にしようとして書かれたものです。コーブランドは、いくつかのメキシコ民謡を題材としましたが、これらの民謡をそのまま用いるのではなく、言わばコラージュのような手法で再構成し、管・打楽器を効果的に用いてリズムや音色を強調し、「メキシコ的な雰囲気」を詰め込んだ曲に仕立てることに成功しています。曲は、長い序奏を持った、急-緩-急の3部形式で構成されており、序奏部分に登場するトランペットとクラリネットのソロは、さながら「El Salon Mexico」に集う酔っ払い同士の言葉の応酬を表すかのようです。

## 交響詩「ローマの松」

イタリアの作曲家オットリーノ・レスピーギ(1879~1936)は、ロシアでリムスキー=コルサコフに師事し、その師同様、色彩的なオーケストレーションで知られています。その代表作として有名なのが、いわゆる「ローマ3部作」として知られる3曲の交響詩で、中でも1924年に作曲された第2作目の交響詩「ローマの松」は、レスピーギの天分が最も鮮やかに開花した傑作として広く知られています。曲は続けて演奏される4つの部分から構成され、それぞれローマの4つの場所の松を題材として、自由に想像力溢れる情景が描かれています。

第1曲「ボルゲーゼ荘の松」では、ボルゲーゼ荘(16世紀にボルジア公によって作られた公園)で遊ぶ子供たちの姿が描かれています。

第2曲「カタコンブ付近の松」では、一転して古代ローマに思いを馳せています。カタコンブは、初期キリスト教時代に迫害の目を逃れて地下に造られた墓地のことで、この曲ではグレゴリオ聖歌が印象的に用いられています。

第3曲「ジャンニコの松」では、パチカン近くにあるジャンニコの丘の夜の情景を描いています。松に月の光が降り注ぐ中、ナイチンゲールの鳴き声が聴こえます。

第4曲「アッピア街道の松」では、古代ローマの道路アッピア街道を首都へと凱旋するローマ軍が描かれています。朝もやに包まれたアッピア街道では、松並木の陰に静かな平原の景色が広がっていますが、次第にローマ軍の兵士の足音がくっきりと聞こえるようになり、壮大なクライマックスへと向かっていきます。



### Miki Wind Philharmonic

三木ウィンドフィルハーモニー

#### 三木ウィンドフィルハーモニー

1982年に関西の大学吹奏楽部OBを中心に「三木ウィンドアンサンブル」として結成されました。当初はその名の通りアンサンブル団体でしたが、団員の増加に伴い1994年に現団名に改名しました。当団の特徴のひとつとして、社会人であることを正団員の条件としています。貴重な時間を大切に共有しながら、いっしょに大好きな音楽を紡いでいこうというのが我々の「フィルハーモニー」の精神です。学生のように十分な練習時間はとれませんが、社会人として仕事も家庭も大切にしながら、少しでもレベルの高い音楽を目指そうとしています。創立27年目となりましたが、団長と2人の指揮者はずっと変わらず、当時のメンバーも数多く在籍する一方、若い世代の団員も増え、幅広い年齢層の団員をもつ団体となりました。

他の吹奏楽団と合同でこのザ・シンフォニーホールで開催する「JOYFUL BRASS」は今回で10回目、定期演奏会は33回を数え、これまでフィリップ・スパークやヤン・ヴァン・デル・ローストなど海外作曲家の吹奏楽作品の日本初演、関西初演を数多く手がけてきました。吹奏楽コンクールでは結成翌年に初出場以来、大阪府大会では25年連続で金賞を受賞、うち17回大阪府代表として関西大会に出場し、7度の金賞を受賞しています。

#### Members List

Flute & Piccolo	E♭ Clarinet	Soprano Saxophone	Trumpet & Cornet	Trombone	Percussion
池田 正宏 松井 宏子 朝井 美智 田崎 美帆 篠原 江梨子 角谷 幸子 向日 有理子	佐藤 美紀	中川 登紀子	真柄 幸一 佐竹 優 三方 裕司 藤嶋 慶子 山口 雅哉 安田 将和	大蔵 貞治 森田 早紀 真柄 輝彦 市場 辰也	平田 浩一 佐藤 文俊 山本 瑞穂 有吉 功二 関 雅樹 大石田 千広 塩出 真紀
Oboe & English Horn	B♭ Clarinet	Alto Saxophone	Euphonium	Celesta	
東海林 毅 交久瀬 未希 矢倉 菜穂	秋岡 秀和 塚 俊博 名古 徹 田崎 和規 長谷部 元宏 鷺谷 雅也 寺脇 啓子 乙守 純子 永元 紀子 芝本 幸枝 山口 さゆり	下河辺 純一 中川 登紀子	北出 浩一 田場 久美子 倉本 裕子	塩出 真紀	
Fagotto	Baritone Saxophone	Horn	Tuba	Harp	
浅井 正弘 小泉 京平	田口 郁子 高橋 紗紀子	梅里 正英 大道 修弘 鷺谷 由紀 朝沼 智子	桑原 一郎 芝本 倫明 八田 宏美	鈴木 貴子	
	Bass Clarinet	St. Bass		Organ	
	関口 康祐	三井 脩平 浅野 宏樹		追中 宏美	

#### Message

皆様、今日はジョイフルブラス2009へようこそおいで下さいました。1997年にスタートしたこの合同演奏会も今年でちょうど10回目を迎える事になりました。昨年より大阪府以外の一般バンドにも目を向け今回は高昌帥先生の御紹介でA-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラの皆さんとの交流が実現致しました。今後よりおつきあいをさせて頂ければと思っています。今後共このコンサートへの御声援をよろしくお願い申し上げます。

団長：北出 浩一



### A-Winds

NARA AMATEUR WIND ORCHESTRA

#### A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラは1999年10月、古都奈良に誕生したアマチュア吹奏楽団です。「A-Winds (エー・ウインズ)」の「A」は「アマチュア (Amateur)」の「A」であり、アマチュアならではの音楽づくりを追求することを標榜しています。演奏者一人一人の音楽づくりを演奏に反映できる、管打楽器アンサンブルの延長上としての最小人数の吹奏楽=ウィンドアンサンブルを指向し、また、吹奏楽の特性を最大限に発揮できる吹奏楽オリジナル曲を中心に取り上げていくことを活動方針としています。

これまで作曲家の方々を、実際に合奏練習にお招きして、作曲家自身から作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な音楽研究の啓蒙活動にも取り組み、今年度で30回の定期演奏会を数えるに至ります。'01年、'02年の2回に渡り、マエストロ佐渡裕氏による指揮クリニックのモデルバンドとして我々A-Windsが演奏という貴重な機会にも恵まれ「マーチ・モデル」に出会うきっかけとなりました。また20回記念演奏会委嘱作品でもある「Mindscape for Wind Orchestra / 高昌帥」の冒頭のアンサンブルを奏でる打楽器パートは、第28回アンサンブルコンテスト全国大会に出場し銀賞を受賞しています。

#### Members List

Piccolo	E♭ Clarinet	Alto Saxophone	Trumpet	Trombone	Percussion
佐藤 由加里	長尾 恭子	島田 博一 宮本 祐輔	魚谷 昌克 表 恭子 篠木 章江 小倉 明花 乙川 佳世 竹腰 綾香 吉川 茂宏	萱原 淳嘉 小泉 文浩 鈴木 恵子 上野 遼太 西野 純子	平井 晶 荒井 智子 谷口 麻子 久保 寛美 川本 理恵 豊川 史香
Flute	B♭ Clarinet	Tenor Saxophone	Baritone Saxophone	Euphonium	Piano
佐藤 司 魚谷 陽子 古川 恵理 浅野 美音	竹村 明恵 大江 奈々 森本 幸恵 後藤 咲妃 上野 彩香 八木 望 藤岡 宏樹	初岡 和樹	吉村 由夫	大西 善郎 尾登 勇介 藤村 見世	八木 真木
Oboe	Alto Clarinet	Horn		Tuba	
深沢 亮子 篠藤 文子	大西 晴己	久野 耕三 次田 哲平 小林 計昭 大田 雅美		楠 陽介 堤 正治郎	
Fagotto	Bass Clarinet	St. Bass			
満江 孝文	辻田 綾子	佐藤 良一			
Contra Fagotto					
田中 信幸					

#### Message

本日は「JOYFUL BRASS 2009」にお越し下さり、誠に有難う御座います。満席時に再現される「世界一美しい響き」と絶賛される「ザ・シンフォニーホール」で、皆様方とお逢いすることができましたのも、ひとえに演奏のパートナーにと推薦下さり、選んで頂いた高昌帥先生、三木ウィンドフィルハーモニーの皆様方のご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。今年で創団10年目。これまでの活動を今日1日の演奏に凝縮して「晴舞台 音で語らう 十年分」今後共、御指導御支援、良きおつきあいを宜しく願い申し上げます。

団長：魚谷 昌克

# JOYFUL BRASS 2009

主 催

三木ウインドフィルハーモニー  
*A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ

後 援

三木楽器(株)  
関西吹奏楽連盟・大阪府吹奏楽連盟  
奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟